

等覺山念仏寺は六波羅密寺の西にあり。〔むかしは此辺を愛宕里といふ、今此名は當時に止りて世人愛宕寺と称す〕

真言宗にして、開基は弘法大師、中興は千觀内供なり。本尊觀世音は千觀の作なり、左右の脇士は毘沙門地蔵尊千觀内

供自作の像を安ず、此人姓は橘氏、相州の刺史中納言頼顯卿の子なり、幼名を千觀丸といふ、成長して叡山運照内供

の室に入て出家し、顯密の碩学となりて、一世の間常に六字の仏号を修する事止事なし、故に念仏上人と呼ぶ。又堂内

に地蔵尊を安置す、此像を火伏地蔵と称して、毎歳正月二日經を讀て、諸人火伏の札を出す、是を天狗宴と称す。

車寄松〔千觀内供つねに車に乗じて往来し、此松に車を寄せしとぞ〕